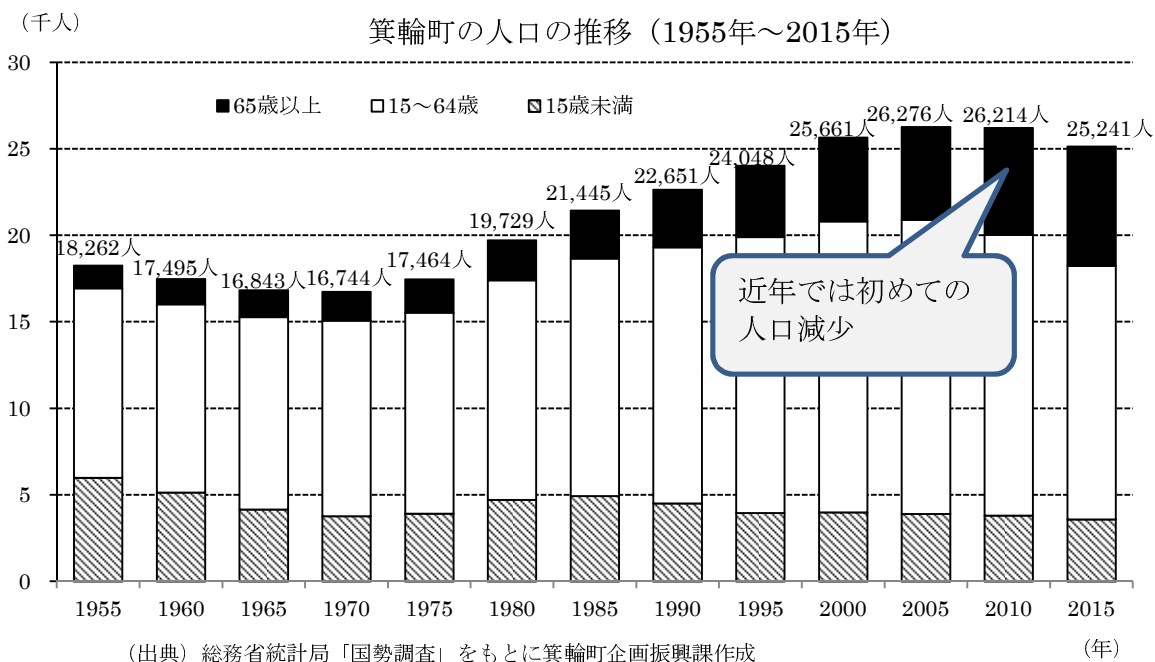


人口動向について

○人口減少時代の到来

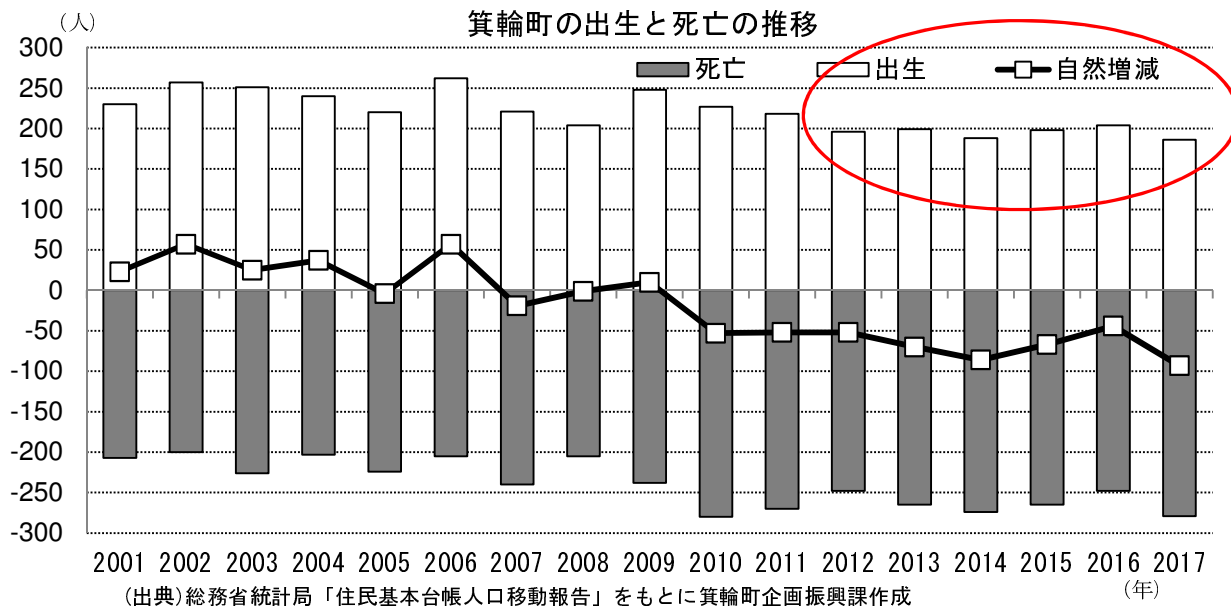
箕輪町では、昭和 55 年(1980 年)～平成 22 年(2010 年)の人口増加率が 32.9%に達し、率にして県内でも 6 番目にあたる増加を達成しました。その後、平成 22 年(2010 年)に人口減少に転じています。



○人口減少に転じた要因

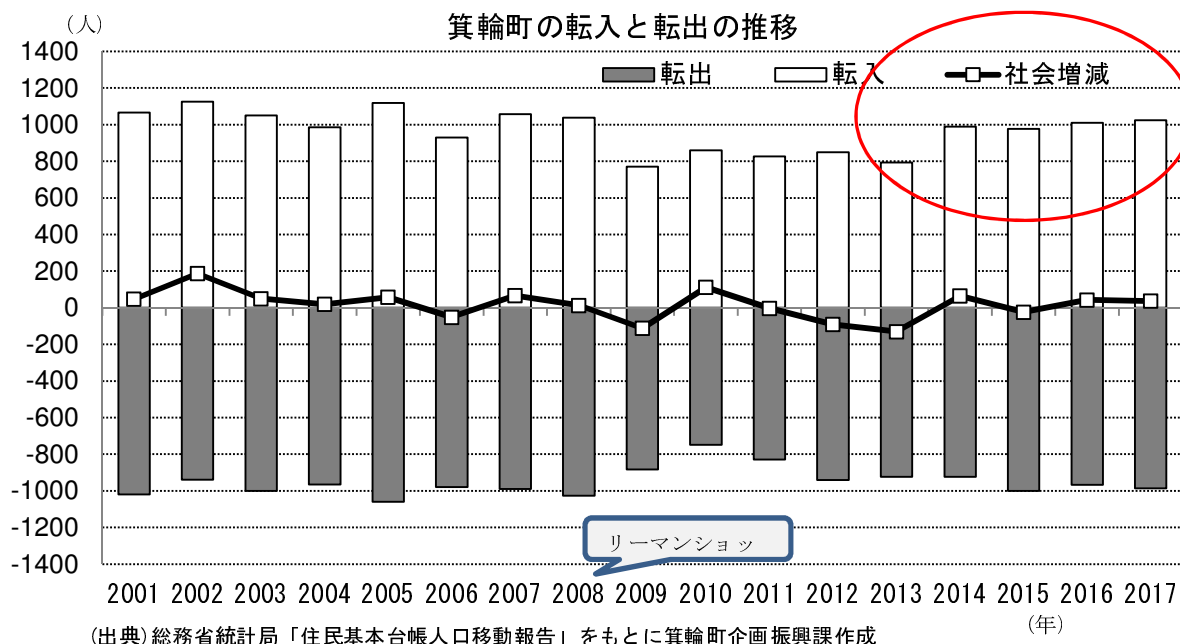
①人口の自然減

箕輪町では、平成 22 年(2010 年)以降、出生数が死亡数を下回る、人口の自然減の状態が続いています。ここ数年は、年間の出生数が 200 人を割っています。対して、死亡数 250 人以上が続いています。



②人口の社会減

箕輪町の他地域からの転入者数、他地域への転出者数は、主要産業の製造業等の景気動向に大きく左右されると見受けられます。特に、リーマンショックが発生した直後(2009 年)には大規模な転出超過が起こり、その後も 5 年間は転出超過の傾向が続きました。ここ数年は転入超過傾向にあります。

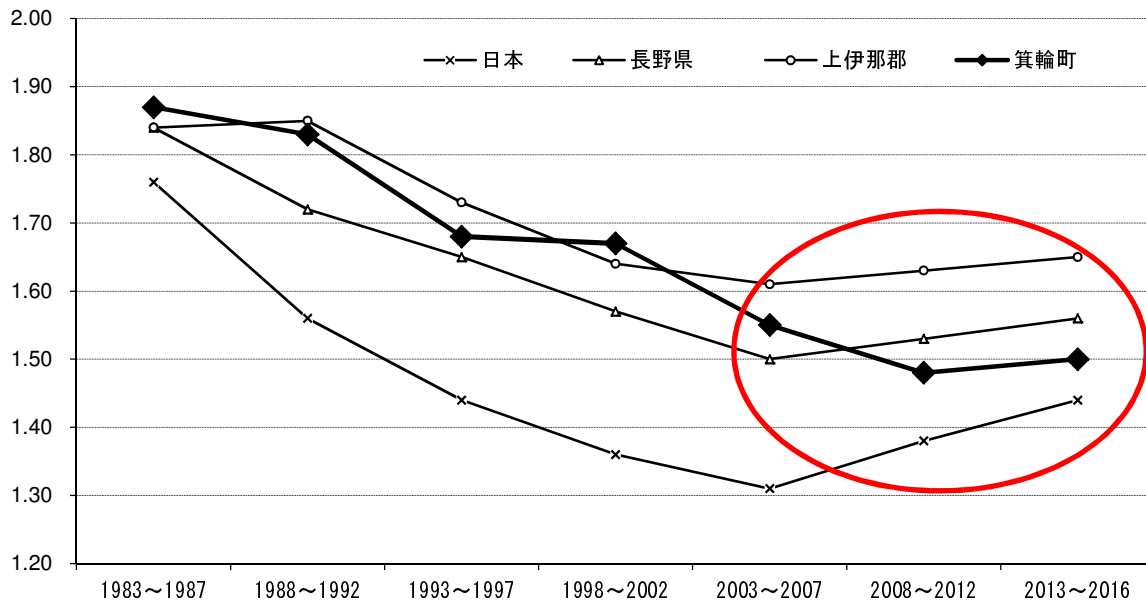


③少子高齢化

平成 30 年(2018 年)現在、箕輪町の高齢化率は 28.7%で、県内でも高齢化率の低い市町村です(77 市町村中 6 番目に低い)。しかし、将来予測によると、今後高齢化率は上がる見込みで、高齢化社会の対応が差し迫った課題です。

一方、出生については、箕輪町の合計特殊出生率は、平成 12 年(2000 年)頃は上伊那郡平均を上回っていましたが、その後下降を続け、平成 20 年(2008 年)以降は、長野県や上伊那郡も含む全体で上昇に転じている中で、箕輪町は下降しました。ここ数年は上昇傾向です。

箕輪町の合計特殊出生率の推移 (1983年～2016年)



(出典) 厚生労働省「人口動態統計特別調査報告」をもとに箕輪町企画振興課作成。

(年)

- (注) 1 長野県、上伊那郡、箕輪町の合計特殊出生率はベイズ推計を用いた。
 2 日本の合計特出生率は、1983年から1997年は公表値の5年平均の値、1998年以降はベイズ推計の値を用いた。
 3 2013年から2016年の合計特殊出生率は、日本、長野県は「人口動態統計」の値を用いた。
 上伊那郡、箕輪町は伊那保健所で算出した値を用いた。

2008 年～2012 年に箕輪町の 15～29 歳の女性人口が 18.9%減少し、出生数は 29.0%減少しました。15～29 歳女性人口と出生数の減少は大きな課題となっています。

箕輪町の出産年齢別人口と出生数の推移

	15～29 歳(人)		30～39 歳(人)		40～49 歳(人)	
	女性人口	出生数	女性人口	出生数	女性人口	出生数
a 1998 年～2002 年	2489.6	129.8	1581.2	112.0	1631.4	6.2
b 2003 年～2007 年	2299.6	105.0	1839.4	132.0	1482.4	8.4
c 2008 年～2012 年	1865.0	74.6	1853.4	132.4	1554.6	17.4
d 2013 年～2015 年	1713.7	70.0	1575.3	112.7	1660.7	10.7
b-c 増減率(%)	△18.9	△29	0.8	0.3	4.9	107.1
c-d 増減率(%)	△8.1	△6.2	△15	△14.9	6.8	△38.5

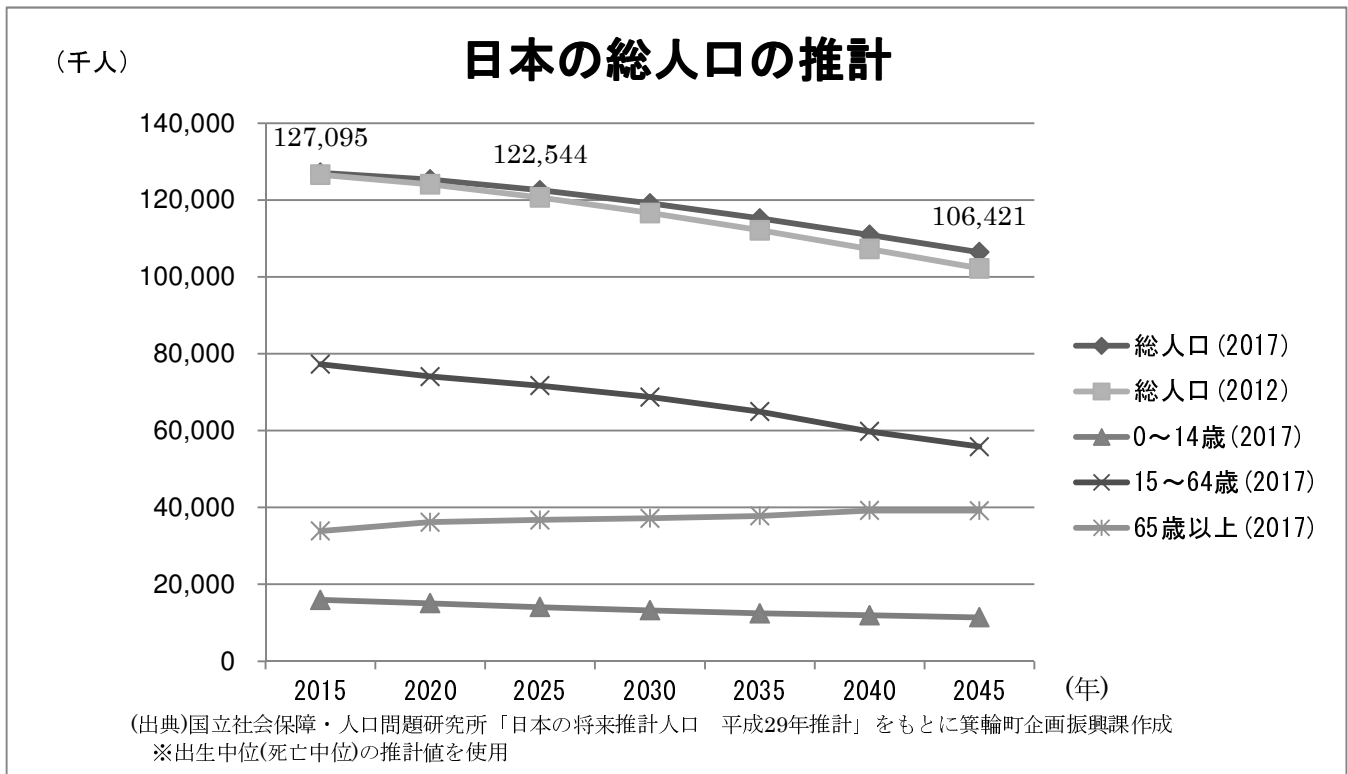
(出典)「毎月人口移動調査 市町村別年齢 5 歳階級別人口(4 月 1 日現在)」と、「長野県衛生年報」を元

※a,b,c の各期間の人口数、出生数は 5 年間の平均値、d の期間の人口数、出生数は 3 年間の平均値

将来人口推計と人口の現状

○将来人口推計

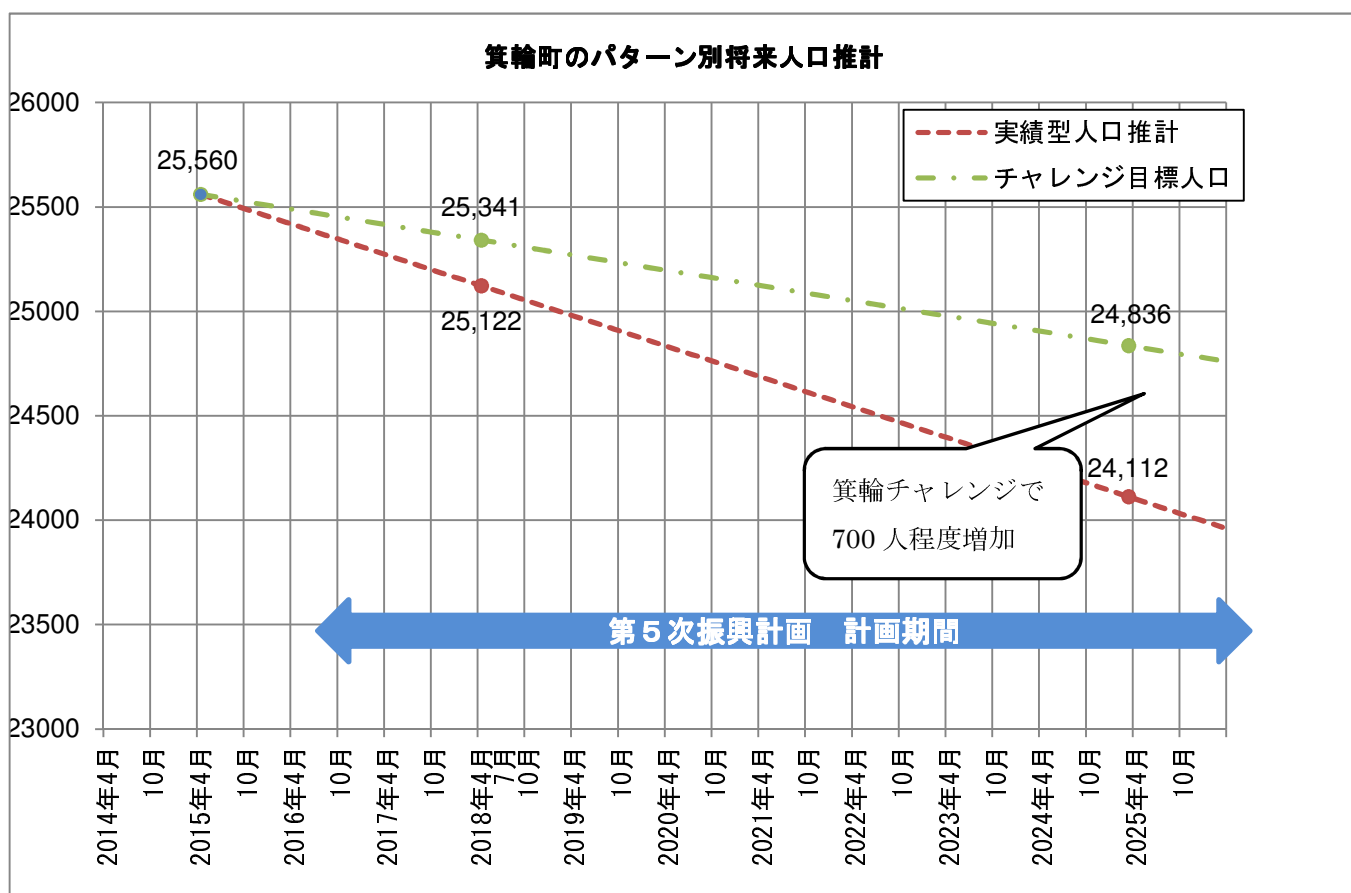
国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、平成 27(2015)年の国勢調査時の総人口 127,095 千人が 2025 年には 122,544 千人、2045 年には 106,421 千人まで減少する見込みとなっています。また、0～14 歳、15～64 歳の人口が減少し、65 歳以上の人口が増加する見込みです。



○箕輪町の将来人口推計と第5次振興計画の目標

箕輪町における将来人口を予測した結果、2025年の人口は、平成27年(2015)年より約1,500人減少し24,100人程度となると見込まれます。人口が減少する時代では、公共事業や社会保障を支える税収の減少や、高齢化による社会保障費の増大、担い手不足によるコミュニティの弱体化など、暮らしを脅かす様々な課題が想定されます。

そのため、「箕輪町第5次振興計画」は、人口減少時代に挑戦する計画として平成28年(2016年)に策定されました。計画では、チャレンジ目標の1つとして人口規模の維持を掲げており、平成2025年には24,100人程度まで減少すると予想されている人口を、①人口の自然増、②人口の社会増により24,800人以上に維持することを目指しています。

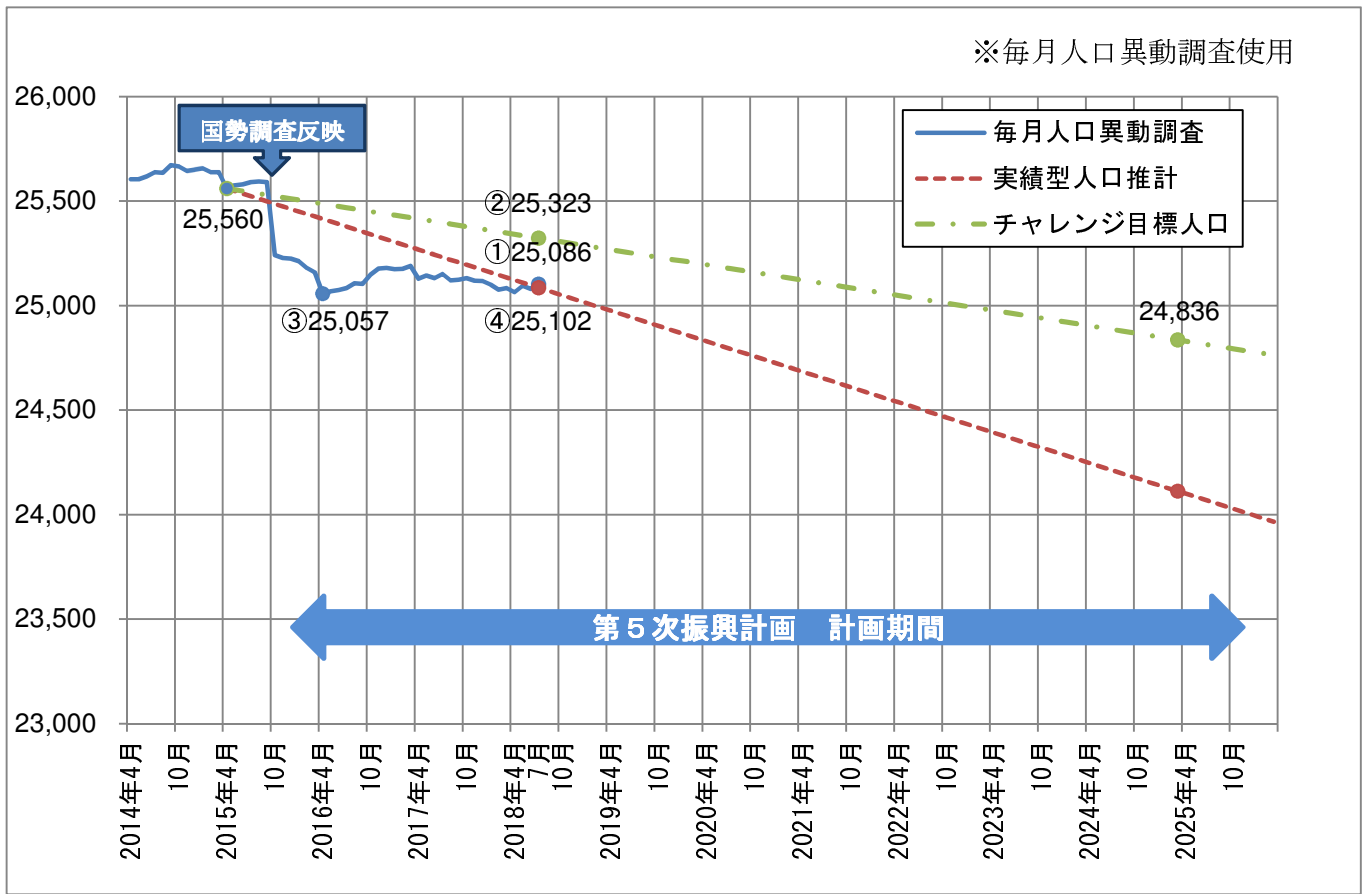


【解説】

実績型推計人口：国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）の人口推計について、起点を2015年4月の実績人口に補正し、2010年から2015年の実績による移動率で補正算出した人口。

チャレンジ目標人口：以上の実績型推計人口について、出生数と転入者数を上方補正し算出した推計人口。

○箕輪町の人口の現状

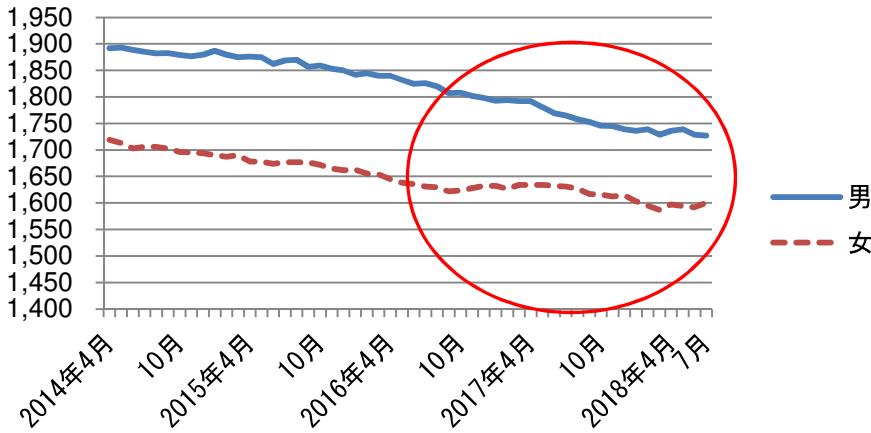


(出典)長野県企画振興部情報政策課統計室

2018年7月1日現在の実績人口は25,102人(毎月人口異動調査)で、①実績型推計人口と比較して▲16人、②のチャレンジ目標の現時点人数と比較すると▲221人となっています。第5次振興計画の計画期間で見ると、計画期間開始時(2016年4月)の25,057人から、45人の増加となっています。

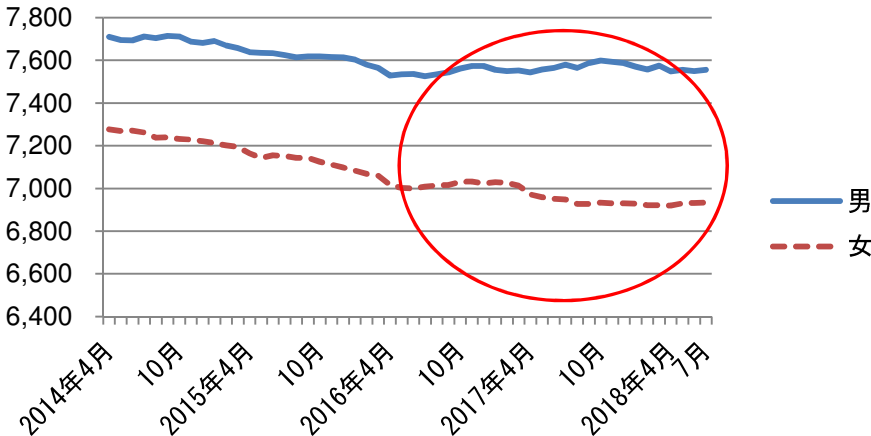
①実績型推計人口(2018年7月)	25,086人
②チャレンジ目標(2018年7月)	25,323人
③計画開始時人口(2016年4月)	25,057人
④2018年7月1日の人口	25,102人
(①-④)推計人口と現在人口の差	▲16人
(②-④)実績人口と現在人口の差	▲221人
(③-④)計画期間での人口推移	45人

年少人口（0～14歳）の推移



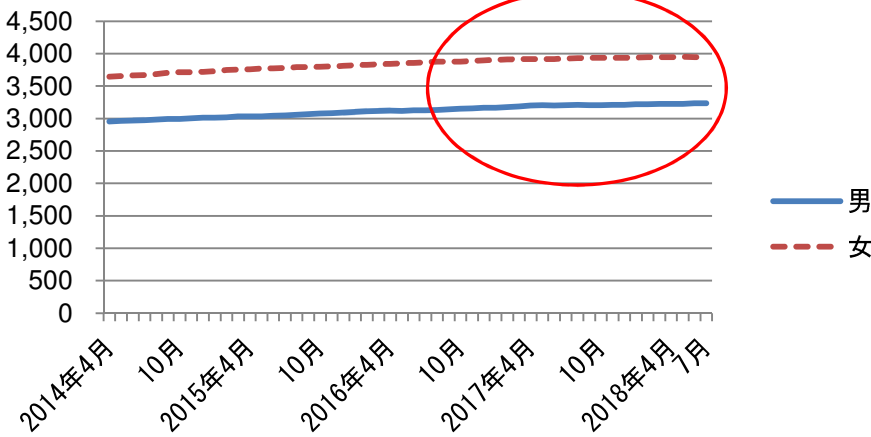
※¹ :
年少人口は減少傾向

生産年齢人口（15～64歳）の推移



※² :
生産年齢人口の男性は微増、女性
は減少傾向

老年人口（65歳以上）の推移



※³ :
老年人口は若干増加傾向
老年人口では、平均寿命の差によ
り女性人口が上回る

○人口に関する用語解説

【国勢調査における人口】

5年毎に実施される国勢調査の人口は「常住人口」であり、常住人口とは調査時に調査の地域に常住している者をいう。「常住している者」とは、当該住居に3か月以上にわたって住んでいるか、又は住むことになっている者をいい、3か月以上にわたって住んでいる住居又は住むことになっている住居のない者は、調査時現在居た場所に「常住している者」とみなす。 ※外国人含む

【毎月人口異動調査】

県が、最新の国勢調査人口を基礎に、住民基本台帳の状況を基に県内市町村から報告された人口及び世帯数の毎月の異動（出生・死亡・転入・転出・世帯増減など）を加減して推計、公表。

なお、人口ビジョンは平成22年の国勢調査結果を使用。

(参考 国勢調査 H22 : 26,214人 H27 : 25,241人)

【住民基本台帳人口】

各市町村に備え付けてある「住民基本台帳」に登録されている住民の数。国勢調査人口を基礎にしない。人口、世帯数、人口動態(転入、転出、出生、死亡など)を公表。 ※外国人を含む

※「毎月人口異動調査結果」と「住民基本台帳人口」は一致しない。